

美術展

な選抜展出品者、期待されているが、遺伝学的なイメージから御嶽のイメージの形象へと変わった一連の作品

県内で絵を描くようになった三年の永津禎三が、今年も東京のグループ展「UTAKI」の同進行で出品している。その一つ、セントラル画廊に

深まった神秘感

（銀座三丁目）東京セントラル画廊、十

旗揚げした昭和期第三世代ともいべき若手画家のグループ展。一九三七（昭和十二）年、四一（昭和十六）年生まれと年齢からいえば少し上の世代もいるが、大体一九四〇年代後半から五十年代生まれが中心。公募団体展所屬者は二紀、独立、モダンアート、新制作。図画、現代日本美術展など洋画で今活力がある団体展で受賞して安田火災奨励賞展に推薦されるなどの新鋭会員・会友クラス。無所属作家も安井賞展、シエル美術賞



永津禎三「UTAKI」

が、二十一世紀へ向かう日本社会の種々相、精神の断面を確実に描き出して共感を与える雰囲気があった。いま一つのグループ展（銀座七丁目画廊）とともに展示している永津作品

（東京）